

刊行にあたって

本書は、「銀行業務検定試験・財務２級」に合格することを目的として編集された受験参考書です。

ご承知のように、「銀行業務検定試験・財務２級」は記述式の試験ですので、解答にあたっては、いかにわかりやすく簡潔に文章をまとめるかが問われます。そのためには、十分な財務知識を必要とすることはもちろんですが、過去の出題傾向に即した練習問題を実際に何度も解き、書いてみるのが大切です。その際、出題の意図・ポイントを的確に把握したうえで文章をまとめる、そうした点を大いに配慮して本書は編集されています。

金融機関の行職員にとって財務知識は日々の業務を遂行するうえで必要不可欠なものです。とくに企業をみる場合、信用調査とともに財務内容を検討・判定するための十分な眼を養うことが必要です。そのためには、十分な財務知識を日頃より身に付け研鑽する姿勢こそが大切です。そして、その習得度合いをはかるためにも銀行業務検定試験にチャレンジしてください。

過去の問題については、『財務２級問題解説集』（銀行業務検定協会編）に収録してありますので、本書とあわせて有効に活用し、「銀行業務検定試験・財務２級」に合格され、よりいっそう日常業務に邁進されることを祈念して止みません。

2024年２月

経済法令研究会

目 次

- 1 本書の利用方法
- 2 記述式答案の書き方
- 3 答案の具体例
- ◆ I F R S の概要（日本の会計基準の理解のために）など
- ◆ 銀行業務検定試験「財務 2 級」出題範囲
- ◆ 出題項目別一覧（過去 7 回分）

財務諸表

1	財務諸表のしくみ	4
2	貸借対照表・損益計算書の様式・区分	13
3	流動資産の分類・内容	21
4	固定資産・繰延資産の分類・内容	27
5	負債の分類・内容	34
6	純資産の分類・内容(1)	42
7	純資産の分類・内容(2)	55
8	有価証券の評価	60
9	棚卸資産の評価	74
10	固定資産の評価	81
11	固定資産の減損会計	99
12	損益計算書の分類・内容	106
13	製造原価報告書	111
14	損益計算の原則	118
15	新しい収益の基準（その他の論点）	128

16	会計原則と利益操作	137
17	引当金	143
18	連結財務諸表	158
19	セグメント情報の分析	173
20	税効果会計	179

財務分析

1	財務分析一般	190
2	収益性分析	199
3	損益分岐点分析	205
4	生産性分析	212
5	売上・利益増減分析	218
6	安全性分析	226
7	資金運用表(1)	237
8	資金運用表(2)	246
9	資金移動表	253
10	資金繰表	261
11	一般運転資金	269
12	特殊運転資金・設備資金	276
13	キャッシュ・フロー計算書	284
14	会社の株価算定・評価について	299

● 凡 例 ●

本文中の法令の略語は、次のとおりです。

- ・財規……………財務諸表等の用語、様式及び作成
方法に関する規則
- ・原則……………企業会計原則

財務諸表のしくみ

出題【23年6月・問5／21年6月・問4】

基本問題

A社（小売業）の当期末の試算表
ならびに決算整理事項は、別記のと
おりである。これについて、次の設
問に答えなさい。

- (1) 計算過程を示して当期の純利
益を算出しなさい。
- (2) 当期末の純資産の額はいくら
となるか、内訳明細を示して
答えなさい。

決算整理事項

- | | |
|----------------|---------|
| ① 期末商品棚卸高 | 4,312万円 |
| ② 固定資産の減価償却費 | 300万円 |
| ③ 賞与引当金の計上(繰入) | 270万円 |

決算整理前残高試算表

A社 (単位：万円)

借 方	勘定科目	貸 方
2,175	現 金 預 金	
3,825	商 品	
4,237	固 定 資 産	
	買 掛 金	2,287
	借 入 金	5,062
	資 本 金	1,200
	利 益 準 備 金	200
	別 途 積 立 金	685
	繰越利益剰余金	90
	売 上	22,500
16,500	仕 入	
5,137	販 管 費	
	受 取 利 息	112
262	支 払 利 息	
32,136		32,136

🔑 本問のポイント

- ① 決算整理事項にもとづいて、整理仕訳を行う。
- ② 整理仕訳を、当期末の決算整理前の残高試算表に追加計上する。
- ③ ①②を行った後の残高試算表から、損益項目を計上して、当期純利益を算出する。
- ④ 資本勘定を集計して純資産の額を算出する。この場合、③で算出した当期純利益を前期から繰越した繰越利益剰余金（前期繰越利益）に加算して、期末の繰越利益剰余金残高を算出する。

解答欄 (自己作成欄)

財務諸表

問題理解と解答作成ポイント

簡単な事例で、簿記上の計算のしくみ、試算表の見方等に関して解答を求めたものである。試算表の数字が意味するものの理解など、基礎的な知識があれば十分解答できる。

解答上のポイントをあげると、以下のとおりである。

- ① 売上原価の計算では、試算表上の商品が期首商品棚卸高であること（例外もあるが）に気づけば、「商品＋仕入－期末商品棚卸高」で簡単に計算できる。この売上原価の計算のしくみは、財務諸表を分析するに際して、必ず知っておいてほしいものである。
- ② 減価償却費を損益計算のなかに含めない解答がときどき散見される。
- ③ 損益法によらず、財産法によって計算することもできる。しかし、財産法による計算はいわば増減計算であり、内訳を示さず損益を示す。したがって、直接損益をとらえる損益法のほうが当期純利益の発生原因を把握しやすい。

財産法による計算は、次のとおりである。

資 産		負 債	
現金預金	2,175	買掛金	2,287
商 品	4,312	借 入 金	5,062
固定資産	<u>3,937</u>	賞与引当金	<u>270</u>
計	10,424(A)	計	7,619(B)

$(A - B) = \text{純資産}(1,200 + 200 + 685 + 90) = \text{当期純利益} \underline{630 \text{万円}}$

- ④ 純資産の額の計算では、繰越利益剰余金に当期純利益を含めることを忘れないようにしたい。

採点上は、最終的な解答よりも、算出過程の中味に重点をおいて配点される。とくに設問(1)は、算出過程がポイントであるから、その点に注意すべきである。

★関連事項

1 決 算

決算では、一会計期間ごとに簿記上の取引記録をもとに、これに決算修正手続を加え、貸借対照表と損益計算書を作成する。

決算の目的は、一会計期間の損益を正確に算定することにある。継続して行われている企業活動を、人為的に一期間に区切って損益計算をするには、当期の収益や費用を翌期以降のものと区別するために、いろいろな計算や修正手続が必要となる。そのうちの簿記上の主な決算整理の手続、すなわち勘定記録の修正手続について以下に説明する。

2 棚卸資産の修正仕訳

まず棚卸資産勘定に関する整理仕訳である。これは商品売買による損益を計算するために売上原価を決定し、資産として計上する期末商品在高の勘定記録をすることである。一般に、期中の商品売買取引の勘定記録は、仕入勘定に当期商品仕入高が、また売上勘定に当期商品売上高が計上されている。

一方、商品の手許在庫高は、決算期末時点で実地棚卸が行われ、それによる在庫残高が商品勘定（資産勘定）として計上されている。

したがって、決算整理前の商品勘定には期首残高がそのまま計上されていることになる。そこで、決算では、まず期末在庫高を実地棚卸によりつかみ、次に期首・期末商品在高についての修正仕訳を行うことになる。

たとえば、商品勘定が200万円（期首在庫高）、仕入勘定1,500万円で、期末在庫高が240万円であった場合の修正仕訳は、次のようになる。

借 方	金 額	貸 方	金 額
① 仕 入	200	商 品	200
② 商 品	240	仕 入	240

〈執筆協力〉

戸倉裕治（公認会計士、税理士）

☆ 本書の内容等に関する追加情報および訂正等について ☆
本書の内容等につき発行後に追加情報のお知らせおよび誤記の訂正等の必要が生じた場合には、当社ホームページに掲載いたします。

（ホームページ [書籍・DVD・定期刊行誌](#) メニュー下部の [追補・正誤表](#)）

銀行業務検定試験 公式テキスト 財務2級 2024年6月・10月受験用

2024年3月31日 第1刷発行 編者 経済法令研究会
発行者 志茂満仁
発行所 (株)経済法令研究会
〒162-8421 東京都新宿区市谷本村町3-21
電話 代表03-3267-4811 制作03-3267-4897
<https://www.khk.co.jp/>

営業所／東京03(3267)4812 大阪06(6261)2911 名古屋052(332)3511 福岡092(411)0805

制作／経法ビジネス出版(株)・小野 忍 印刷／日本ハイコム(株) 製本／(株)ブックアート

©Keizai-hourei Kenkyukai 2024

ISBN978-4-7668-4451-1

定価は表紙に表示してあります。無断複製・転用等を禁じます。落丁・乱丁本はお取替えします。